

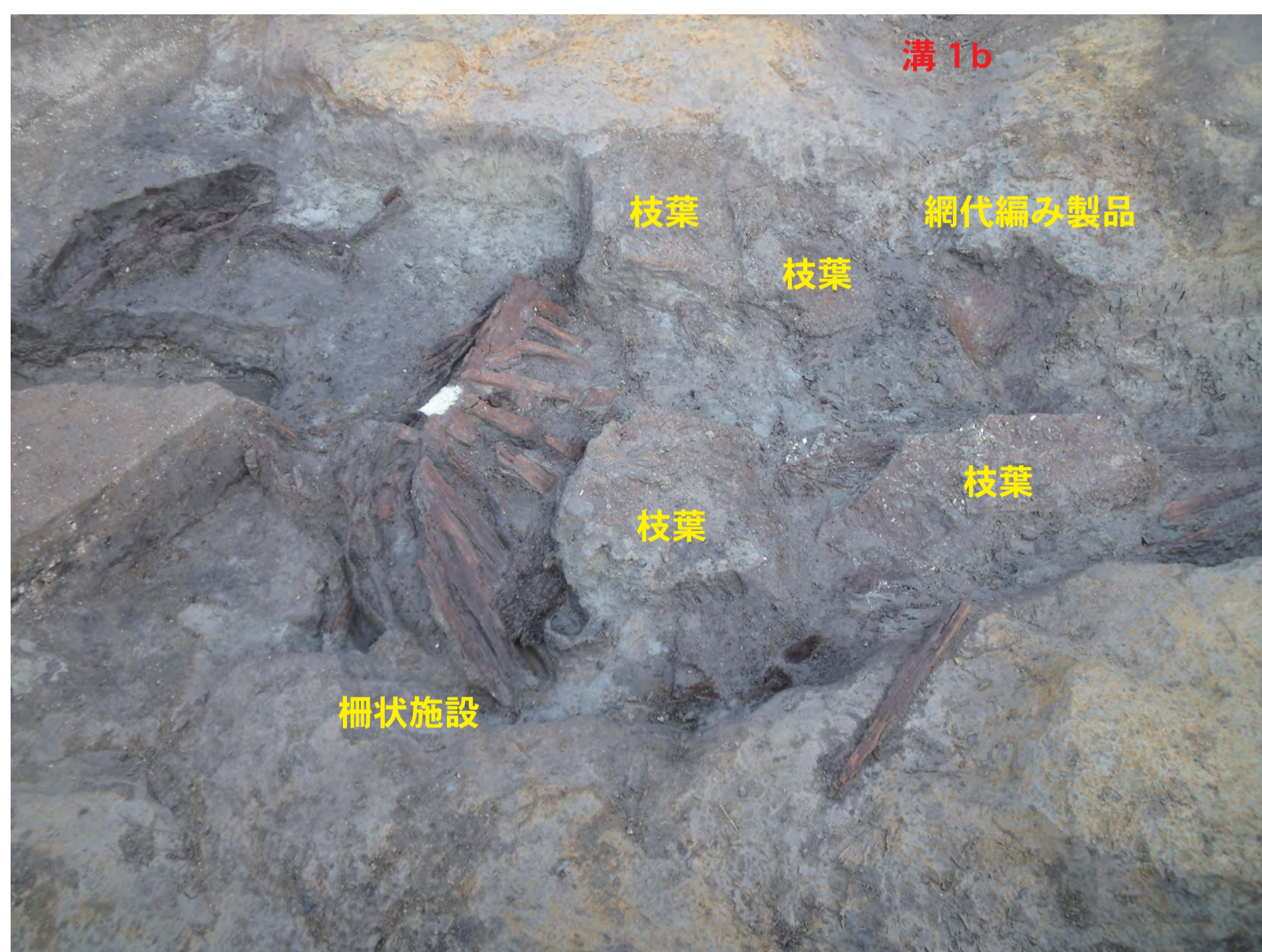
溝底に設けられた 「性格不明遺構」

①第1 武道場その他工事に伴う発掘調査

今回の調査では、溝2と溝3の底面3箇所杭が打ち込まれた土壌(素掘りの穴)が確認されました(性格不明遺構1・2・4)。

このうち、性格不明遺構1と2は溝1a・1bの並列した場所に設けられており、性格不明遺構4は自然河川と溝3の分岐部に設けられています。杭は一見乱雑に打ち込まれているようですが、性格不明遺構1・2を見ると平行して2条の杭列が存在していたようです。現在類例を調査中ですが、取水量を調整する**堰(せき)状施設**であった可能性があります。

一方、性格不明遺構3は溝2b性格不明遺構2の下流部に設けられています。楕円形の土壌は溝方向に直交して設けられており、中央には柵状の施設が横倒しの状態で検出されました。柵状施設の上(南西方向)には竹の網代編み製品が、その上にはアシ状植物が、さらにその上には枝葉や竹製網代編み製品が幾層も重なった状態で出土しています。弥生時代の遺跡で類例を探し出せていませんが、溝2bを抜けた水がこの施設に導かれていることから、**水の濾過(ろか)施設**と推定しています。弥生時代の網代編み製品は山口県初の出土と見られるため、うち3点を剥ぎ取り、保存することになりました。今回が一般初公開となります。



性格不明土壌3全景(南西から)



竹製網代編み製品出土状況(南から)



柵状施設上に重ねられたシダ状植物(南東から)



柵状施設に貼られた竹製網代編み製品(南から)